

目的 ドライクリーニングの苦情において「汚れがよく落ちていない」という訴えが多い。そこで問題となる衾垢及びタンニン系汚れをとりあげ、その適切な除去法を検討した。

方法 試験布—綿、麻、絹、羊毛、ナイロン、アクリル、ポリエステル繊維平織白色布、汚れ—衾垢布として水媒系人工汚染布。タンニン系汚れとして緑茶、紅茶、コーヒー溶液、汚点除去剤—業者用汚点抜剤10種、市販汚点抜剤3種、汚点抜用薬品14種、溶剤5種、漂白剤7種、汚点抜用具—パッキン棒ブラシ(ナイロン製)超音波洗浄器(ソノフラッシュUW-105型微振動 $2800\frac{回}{秒}$)汚点抜装置(ソノマイティUW-88、バキューム、スチーム、エア装置により、湿潤、しみ抜き、すすぎ、ばかし、乾燥を短時間で行う)表面反射率測定—衾垢布はクリーンマスター(村上色彩技術研究所)タンニン系汚れは分光光度計反射測定装置(島津製作所)汚染布の経日変化—汚染後1日、1週間、4週後に除去

結果 1)水媒系人工汚染布の除去難易はポリエステル布は最もとれ易く、絹>アクリル>毛>麻であり、綿は除去し難い。2)綿汚染布の経日変化による除去は汚染1日に比較し1週間後でかなり除去率が低下し、4週間後では除去率は半減する。3)タンニンを含有する汚点は経日変化が親水性繊維において著しく、4週間経過後は除去困難となり、綿布では紅茶、コーヒー、絹及び羊毛では紅茶の汚点が除去し難い。4)水媒系人工汚染布は業者使用の非イオン及び陽イオン界面活性剤並びにプロテイン配合剤が最も除去率が高い。5)タンニン系汚点はタンニンの除去能を持つ乳酸と色素除去のアルコール及び界面活性剤を配合した汚点抜剤がよい。6)汚点抜機での除去は短時間で効率よく輪じみが残留しない。